

『アーバンスタディーズ』より「序論：都市の夜の地理」

(Introduction: Geographies of the urban night from *Urban Studies*)

池田真利子 訳

(日本学術振興会特別研究員PD, 東京学芸大学)

【訳者解題】

本稿は、アメリカ SAGE 社の発刊する月刊学術査読誌『Urban Studies』52巻3号(2015年)に掲載された特集号「都市の夜の地理学」の巻頭論文を和訳したものである。同特集号には、「都市の夜」に関連する13本の論文が掲載された。巻頭論文である本稿の和訳に当たり、本訳者解題で同特集号の概要を示し、次いで巻頭論文・特集号に示されている議論を参照しつつ、世界および日本国内の夜間経済・ナイトライフ観光に係る議論の動向について若干の議論を行う。

同特集号の概要

特集号13本の論文のうち、巻頭論文を除く12本の論文題目・キーワード和訳と各調査国は、表1の通りである。なお、論文著者の発行年は同一のため、省略した。同特集号には「西ヨーロッパ(western Europe)」の事例が並び(イギリス5本, オランダ2本), その他に、カナダ, オーストラリア, インドネシアの事例も各1本含まれる。また、方法論を含む内容を概観すると、巻頭論文を含む3本が、夜の意味や光・闇といった表象に係る理論的アプローチを重視するが、残りの10本は実証的アプローチ、とりわけ行政や非営利団体、管理会社を含む夜間経済活動の担い手や利用客へのインタビュー調査という人文主義的アプローチをとる。ただし、この10本が事例研究であり、その他3本がそれらの理論的検証を行うというよりも、特集号全体が序論(論文1), 「都市の闇(darkness)と夜の意味と経験の変化」(論文2・3), 「夜間経済の発展」(論文4・5), 「規制の強化」(論文6~8), 「外出行為のダイナミクス」(論文9~12), および総論(論文13)の大きく四つの議論に収斂される。これは、本論文構成にも反映されており、IV~VII章では上記4点に関する先行研究や議論が、VIII章ではそれとの関連において、巻頭論文を除く同特集号全12本の論文概要が記されている。そのため、巻頭論文を除く同特集号の12本の論文の概要は、VIII章にまとめられている。論文構成は以下の通りである。夜の特別な場所(I章), 理論的考察(II章), 変化と既存研究(III章), 都市の闇と夜の意味と経験の変化(IV章), 夜間経済の発展(V章), 規制の強化(VI章), 外出行為のダイナミクス(VII章), 論文(特集号の論文概要)(VIII章)。以上より明らかなように、異なる調査地・題材・調査方法を扱った研究を、網羅的かつ端的にまとめている点においても、van Liempt et al. (2015)を参照する価値があるといえる。